

科目名	理学療法概論						
担当講師	佐藤浩哉 長野由紀江						
実務経験の概要	佐藤浩哉 : 医学博士, 理学療法士, 介護支援専門員, 病院・介護施設等での実務経験を有する. 長野由紀江 : 理学療法士 医療施設において実務経験を有する.						
履修年次	1	単位数	3	時間数	75	開講時期	通年
授業形態	講義/演習/オムニバス						

授業概要

1. 理学療法の概要について学習します.
2. 理学療法士の社会的役割と必要とされる資質について学習します.
3. 理学療法士としてのキャリアラダーについて学習します.
4. 理学療法士に関わる業務、各種法律・制度、業務管理、職能について学習します.
5. 理学療法士業務に関わる制度や教育・研究について学修します.
6. 社会における理学療法士の組織や職能について学修します.

学修到達目標

1. 理学療法士の概要が説明できる.
2. 理学療法士の社会的役割が説明できる.
3. 理学療法士に相応しい資質を考察できる.
4. 理学療法士としてのキャリアラダーを説明できる.
5. 理学療法士に関わる業務および業務管理について説明できる.
6. 理学療法に関わる各種法律・制度、職能について説明できる.
7. 理学療法士に関わる各種制度とその領域における役割を理解し、述べることができる.
8. 理学療法士の教育制度や研究の必要性を理解し、述べることができる.
9. 社会における理学療法士の職能や組織を理解し、述べることができる.

授業計画

第1回	理学療法のイメージと定義	佐藤浩哉
第2回	リハビリテーション医学の概念、語源、定義	佐藤浩哉
第3回	ノーマライゼーション、QOL (クオリティ・オブ・ライフ)	佐藤浩哉
第4回	理学療法の医学的概念、理学療法の語源	佐藤浩哉
第5回	理学療法の歴史	佐藤浩哉
第6回	理学療法と法律 - 1	佐藤浩哉
第7回	理学療法と法律 - 2	佐藤浩哉
第8回	理学療法の意義と役割と対象	佐藤浩哉
第9回	理学療法の方法 1	佐藤浩哉
第10回	理学療法の方法 2	佐藤浩哉
第11回	理学療法の方法 3	佐藤浩哉
第12回	振り返り～1	佐藤浩哉
第13回	個人情報保護法	佐藤浩哉
第14回	理学療法士に求められる資質	佐藤浩哉
第15回	理学療法士のキャリアラダー	佐藤浩哉

第16回	医療・保健分野の理学療法①	佐藤浩哉
第17回	医療・保健分野の理学療法②	佐藤浩哉
第18回	地域リハビリテーションと理学療法①	佐藤浩哉
第19回	地域リハビリテーションと理学療法②	佐藤浩哉
第20回	理学療法士と予防活動	佐藤浩哉
第21回	振り返り～2	佐藤浩哉
第22回	医療分野におけるリハビリテーションの現状	長野由紀江
第23回	医療施設における理学療法士の業務①	長野由紀江
第24回	医療施設における理学療法士の業務②	長野由紀江
第25回	保健領域の現状と理学療法士の役割	長野由紀江
第26回	地域・福祉分野におけるリハビリテーションの現状	長野由紀江
第27回	介護保険制度下における理学療法士の業務①	長野由紀江
第28回	介護保険制度下における理学療法士の業務②	長野由紀江
第29回	障害者自立支援制度の概要と理学療法士の役割	長野由紀江
第30回	理学療法業務実践におけるリスク管理①	長野由紀江
第31回	理学療法業務実践におけるリスク管理②	長野由紀江
第32回	理学療法業務実践における個人情報管理	長野由紀江
第33回	理学療法士の教育①	長野由紀江
第34回	理学療法士の教育②	長野由紀江
第35回	理学療法士と研究①	長野由紀江
第36回	理学療法士と研究②	長野由紀江
第37回	理学療法士の職能と組織	長野由紀江
第38回	振り返り～3	長野由紀江

評価方法

筆記試験：佐藤担当範囲60% 長野担当範囲40%

教科書

学療法概論（神陵文庫）・プリント教材

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

理学療法に対する理解を深めてください。（佐藤）

現社会における理学療法士の役割と現状について多く学びます。理学療法士を目指す学生として礎を築くことを意識して授業に臨んで下さい。（長野）

科目名	理学療法評価学Ⅰ						
担当講師	長野由紀江						
実務経験の概要	理学療法士 医療施設において実務経験を有する。						
履修年次	1	単位数	2	時間数	45	開講時期	通年
授業形態	講義/実技						

授業概要

理学療法を実践するために必要な理学療法評価の目的・過程・技術を学修します。

学修到達目標

1. 理学療法評価の目的、過程を説明することができる。
2. 理学療法評価に必要な基本的な評価技術を理解し実践できる。

授 業 計 画

- | | |
|------|--|
| 第1回 | 理学療法評価の概要①（意義・目的） |
| 第2回 | 理学療法評価の概要②（過程・対象） |
| 第3回 | 理学療法評価の概要③（対象） |
| 第4回 | 理学療法評価の概要④（統合と解釈） |
| 第5回 | 理学療法評価の概要⑤（問題リストの整理、目標設定 理学療法プログラムの立案） |
| 第6回 | 一般評価事項①（情報収集） |
| 第7回 | 一般評価事項②（医療面接） |
| 第8回 | 一般評価事項③（他部門情報・カルテ情報収集） |
| 第9回 | バイタルサイン① |
| 第10回 | バイタルサイン② |
| 第11回 | 形態測定① |
| 第12回 | 形態測定② |
| 第13回 | 関節可動域測定① |
| 第14回 | 関節可動域測定② |
| 第15回 | 筋力測定① |
| 第16回 | 筋力測定② |
| 第17回 | 知覚検査① |
| 第18回 | 知覚検査② |
| 第19回 | 反射検査① |
| 第20回 | 反射検査② |
| 第21回 | 姿勢分析 |
| 第22回 | バランス検査① |
| 第23回 | バランス検査② |

評価方法

筆記試験（70％） 実技試験（30％）

教科書

理学療法評価学（金原出版） I

参考図書・文献**履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)**

理学療法評価学を学ぶ上で、解剖学・生理学・運動学の理解と関連が重要ですので、復習を心がけて下さい。

科目名	基礎理学療法学						
担当講師	長野由紀江						
実務経験の概要	理学療法士 医療施設において実務経験を有する。						
履修年次	1	単位数	2	時間数	45	開講時期	後期
授業形態	講義/実技						

授業概要

理学療法を实践する上での目的・原理・効果など基礎知識や技術を学修します。

学修到達目標

1. 運動療法の目的・原理・効果など概要を説明できる。
2. 運動療法の基本的技術を理解し、実践できる。

授 業 計 画

- 第1回 運動療法の基礎知識① (目的・対象)
- 第2回 運動療法の基礎知識② (運動の手段・方法)
- 第3回 運動療法の基礎知識③ (分類・禁忌)
- 第4回 運動療法の基礎知識④ (運動の必要性和効果)
- 第5回 運動療法の基礎知識⑤ (トレーニングの基礎的原理・進め方)
- 第6回 コンディショニング① (ストレスと生体反応、リラクゼーション実習)
- 第7回 コンディショニング② (ポジショニング・姿勢変化と生体反応)
- 第8回 運動と生体反応
- 第9回 関節可動域運動①
- 第10回 関節可動域運動②
- 第11回 関節可動域運動③
- 第12回 筋力増強トレーニング①
- 第13回 筋力増強トレーニング②
- 第14回 筋持久力トレーニング①
- 第15回 筋持久力トレーニング②
- 第16回 呼吸トレーニング①
- 第17回 呼吸トレーニング②
- 第18回 バランストレーニング①
- 第19回 バランストレーニング②
- 第20回 神経筋再教育
- 第21回 機能統合トレーニング①
- 第22回 機能統合トレーニング②
- 第23回 機能統合トレーニング③

評価方法

筆記試験（100％）

教科書

運動療法学テキスト（南江堂）

参考図書・文献**履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)**

基礎理学療法学を学ぶ上では解剖学・生理学・運動学の知識が重要となるため、復習に心がけましょう。

科目名	生活活動学I						
担当講師	中嶋奈津子						
実務経験の概要	理学療法士 医療施設、介護保険施設において実務経験を有する。						
履修年次	1	単位数	2	時間数	45	開講時期	通年
授業形態	講義/演習/実習						

授業概要

1. 対象者の生活を支える日常生活活動の概念、構成について学修します。
2. 日常生活活動の基盤となる基本動作の介助について学修します。
3. 対象者の生活活動における理学療法の役割を学修します。

学修到達目標

1. 生活活動の概念及び日常生活活動の概念、構成を理解し、述べることができる。
2. 基本動作の過程と介助、指導方法を述べるができる。
3. 対象者の生活活動課題を理解し、課題解決するための理学療法の必要性について述べるができる。

授業計画

- | | |
|------|-------------------------|
| 第1回 | 日常生活活動の概念 |
| 第2回 | 日常生活活動とICF |
| 第3回 | 日常生活活動とQOL |
| 第4回 | 理学療法における日常生活活動の位置づけ |
| 第5回 | 身の回り動作の理解 起居動作 |
| 第6回 | 身の回り動作の理解 移動動作 |
| 第7回 | 身の回り動作の理解 食事動作 |
| 第8回 | 身の回り動作の理解 排泄動作 |
| 第9回 | 身の回り動作の理解 更衣動作 |
| 第10回 | 身の回り動作の理解 整容動作 |
| 第11回 | 身の回り動作の理解 入浴動作 |
| 第12回 | 手段的日常生活活動の理解 家事動作 |
| 第13回 | 手段的日常生活活動の理解 生活管理 |
| 第14回 | 基本動作の過程と介助の基本 |
| 第15回 | 基本動作の過程と介助 起居動作① |
| 第16回 | 基本動作の過程と介助 起居動作② |
| 第17回 | 基本動作の過程と介助 起居動作③ |
| 第18回 | 基本動作の過程と介助 移乗動作① |
| 第19回 | 基本動作の過程と介助 移乗動作② |
| 第20回 | 基本動作の過程と介助 移動動作① |
| 第21回 | 基本動作の過程と介助 移動動作② |
| 第22回 | 対象者における生活活動の課題 ケーススタディ① |
| 第23回 | 対象者における生活活動の課題 ケーススタディ② |

評価方法

筆記試験

教科書

日常生活活動学テキスト(南江堂)・プリント教材

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

講義予定は進行度合いを勘案しながら適宜変更の可能性があります。

科目名	地域理学療法学Ⅰ						
担当講師	佐藤浩哉						
実務経験の概要	医学博士、理学療法士、介護支援専門員、病院・介護施設等での実務経験を有する。						
履修年次	1	単位数	1	時間数	30	開講時期	通年
授業形態	講義						

授業概要

地域（在宅）で、障害者・高齢者が障害を持ちながら、生活していくためには何が必要で、どう支援していく必要があるのか、そのための基本的な知識を学んでいきます。地域リハビリテーションの概念や生活との関連、理学療法士の役割、関連制度などを学修します。

学修到達目標

1. 地域リハビリテーション，地域理学療法 の概念や定義、対象を理解できる
2. 地域包括ケアシステムの概念を理解する。
3. 地域における理学療法士の役割や関連制度を理解する。

授業計

授業計画

- | | |
|------|-----------------------------|
| 第1回 | 地域理学療法と地域リハビリテーションの概念 |
| 第2回 | 社会情勢の変化 |
| 第3回 | Society 5.0とは？ |
| 第4回 | 社会情勢と地域理学療法 |
| 第5回 | 地域理学療法の視点 |
| 第6回 | 振り返り～1 |
| 第7回 | 地域理学療法と制度 ～ 介護保険制度と障害者総合支援法 |
| 第8回 | 地域包括ケアシステムの理解 |
| 第9回 | 地域理学療法の対象 ～ 支援方法 |
| 第10回 | 振り返り～2 |
| 第11回 | 地域における対象者のニーズとは？ ～ その捉え方1 |
| 第12回 | 地域における対象者のニーズとは？ ～ その捉え方2 |
| 第13回 | 理学療法的支援1～起居動作・良肢位 |
| 第14回 | 理学療法的支援2～移乗・移動動作 |
| 第15回 | 振り返り～3 |

評価方法

筆記試験

教科書

理学療法テキスト 地域理学療法学（中山書店） プリント資料

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

理学療法士の活躍の場は医療現場に留まらず、介護現場にも広がっています。講義内容は、随時変更になる可能性があります。

科目名	臨地実習						
履修年次	1	単位数	1	時間数	45	開講時期	前期
授業形態	実習						

実習目的

1. 理学療法士として働くことを再認識し、これに必要な社会人・職業人としての素養を確認・実践します。
2. 対象者とのコミュニケーションを通じ、その生活に対する造詣を深めます。

実習概要

介護保険サービス提供施設における対象者の生活に関する調査、関わる全ての方々とのコミュニケーションや体験を通じ、理学療法業務への理解を深めます。

学修到達目標

1. 指導者の助言・指導を受けながら前職業人としての基本的態度を身につけます。
2. 対象者との交流を通じ、対象者の日常生活を把握します。
3. 理学療法士を目指すことを再確認します。

評価方法

提出課題70% 実習生評価記録指導者総合評価30%

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

学内での学修に励み、別に発行される「臨地実習のしおり」を熟読したうえで望んでください。